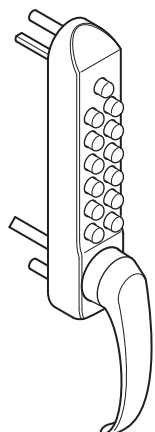


KEYLEX[®] 500

KL500
MIWA (SL80)
シリンダー取替

取扱説明書（施主様向）

このたびは、当社製品のお買い上げ、ありがとうございます。本取扱説明書は、施主様、又はご入居者にお渡しください。
この説明書は必ずお読みの上、保管してください。



22271

防犯上、定期的に記憶番号の変更をされますようおすすめ致します。

〈記憶番号の記録〉

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

ただ今の記憶番号

キーレックス 500 シリーズ 保証書

お買い上げ日から1年間は、無料で修理を行なうことをお約束致します。
但し、誤用、取り扱いの不注意、災害、不当な修理や改造等に起因する
故障による場合、さらに本証のお買い上げ日 及び 販売店名の記入のない
場合は、保障期間内でも有料修理になります。

機種名： **キーレックス 500 シリーズ**

お買い上げ日： 年 月 日 保証期間：お買い上げ日より1年間

販売店
住所・店名

品質ロット No.

検印

NAGA
SAWA

株式会社 長沢製作所

東京支店 TEL. 03-5383-1811 (代)
FAX. 03-5967-3103

福岡出張所 TEL. 092-524-7031 (代)
FAX. 092-524-7032

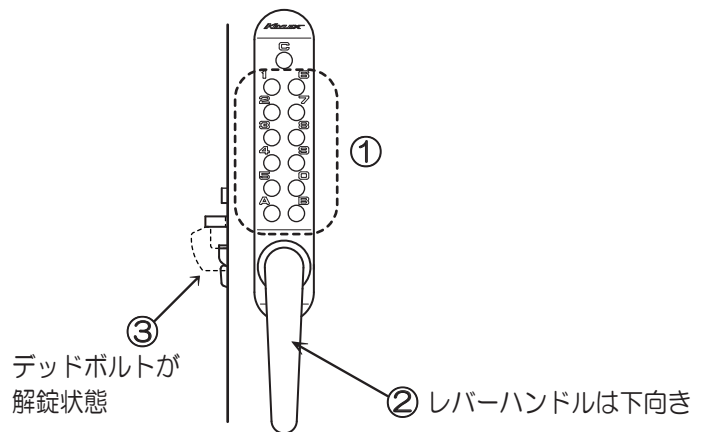
大阪支店 TEL. 06-6783-5091 (代)
FAX. 06-6783-5092

基本操作

シリンダーでの鍵操作が、ボタン操作に変わります。

ご使用前に確認してください。

- ① 登録している記憶番号
- ② レバーハンドルの位置が
下向きになっている
- ③ デッドボルトが解錠状態になっている



※ 図は左勝手仕様です

室内側

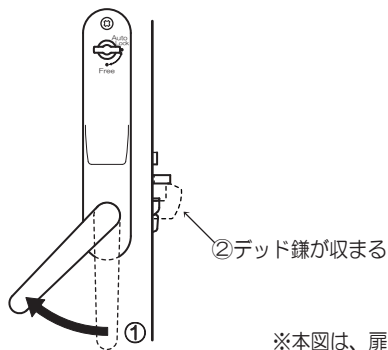
室外側

施錠

扉を閉めれば施錠されます

解錠

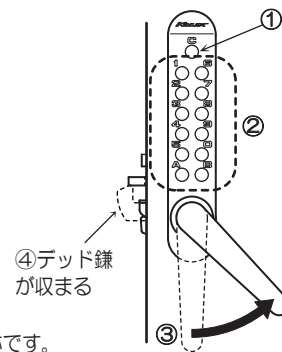
- ① レバーハンドルを回します
- ② デッド鎌が収まることを確認します



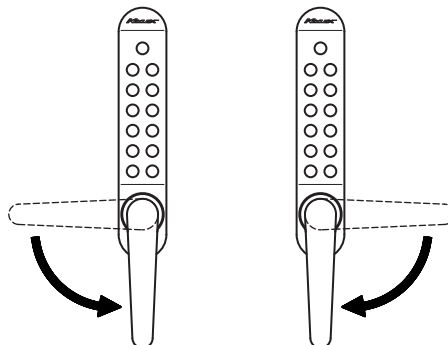
※本図は、扉が左勝手時です。右勝手時は対称です。

解錠

- ① C ボタンを押す：誤操作の記憶番号が解除されます
- ② 正しい記憶ボタンを押します
- ③ レバーハンドルを回します
- ④ デッド鎌が収まることを確認します



レバーが横向きになっていても故障ではありません。
レバーを正常な位置（下向き）に戻してご使用ください。

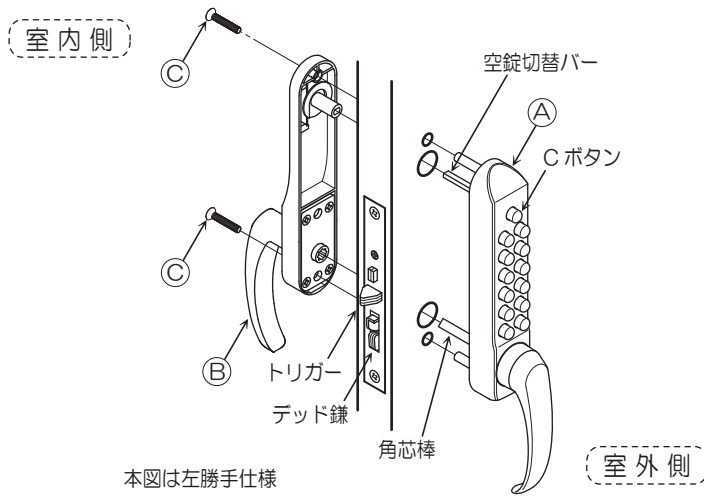


キーレックスは、レバー部に過大な力がかかると、内部機構を守る為に
レバー部が空回り（安全装置が作動）するように設計されています。

記憶番号の変更手順 扉は開けたままの状態でおこないます

【1】キーレックス本体を取り外します

取り外した部材は全て使います。紛失しないようにご注意ください。



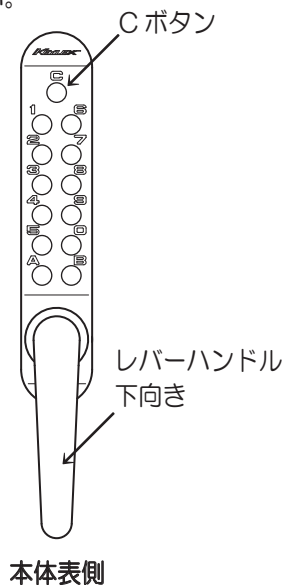
I : ④ キーレックス本体の落下に注意しながら

⑤ 本体固定ねじ2本をはずし、⑥ 室内座をはずします。

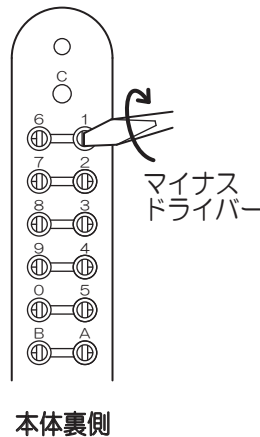
II : ④ キーレックス本体をはずします。

【2】記憶番号の設定変更をします

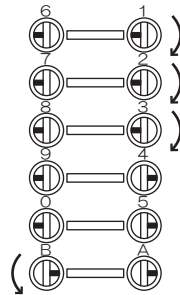
- ① レバーハンドルを下向きに（下図の位置）固定します。本体裏側のCボタンを押します。
- ② 本体を裏側にし、記憶されているロックピンを回転させ（ロックピンの横溝を外側にする）すべてをクリアします。
- ③ 新規に記憶する番号を必ず記録します。本紙裏面に記入欄があります。
- ④ 新規記憶番号のロックピン横溝を中央部の横溝にあわせます。
- ⑤ 新規記憶ボタンを押し、ロックターンが確実に作動することを確認します。



- ② 本体を裏側にし、記憶されているロックピンを回転させ（ロックピンの横溝を外側にする）すべてをクリアします。



例：B 1 2 3



- ⑤ 新規記憶ボタンを押し、ロックターンが確実に作動することを確認します。

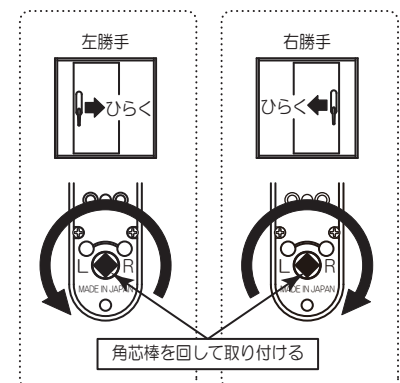
基本操作 室外側欄を参照します。

【3】本体を取り付けます

【1】と逆の順番で取り付けます。

④ キーレックス本体を取り付ける時は、扉の勝手と角芯棒の向きに注意します（右図参照）。間違っていると、施解錠操作ができません。

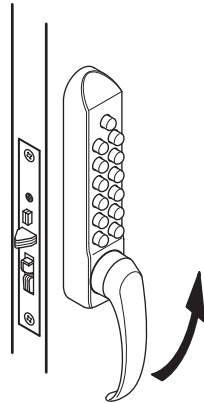
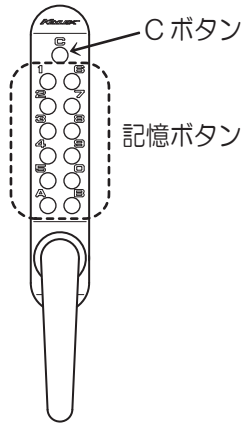
左の基本操作に沿って、作動確認をして完了です。正しく作動しない場合は、記憶番号と吊元変更ねじの位置を確認してください。



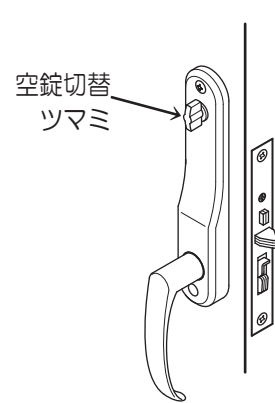
自動施錠から空錠への切替方法

扉を閉めても、施錠しない状態【空錠】にできます。

- ① C ボタンを押し、記憶ボタンを押す。
- ② 室外側のレバーハンドルを解錠操作（矢印の方向）にしたままにする。
- ③ 室内側の空錠切替ツマミを【Auto Lock】から【Free】に切り替える。



図は左勝手仕様



【空錠】から【自動施錠】へは、室内側の空錠切替ツマミを【Free】から【Auto Lock】へ切り替えるだけです。

記憶番号設定に関するご注意

- KL500 は 1 ～ 12 桁まで任意の記憶番号を設定できます。
- ボタンを押す順番は自由です。順番は関係ありません。
例) 記憶番号 1・2・3 の場合
1・2・3 と押しても 2・3・1 3・1・2 1・3・2 と押しても解錠できます。
- 1 つのボタンにつき設定は 1 回だけです。（同じボタンを 2 度押しする設定はできません）
例) 1・1・2・3 や 1・2・2・3 の設定はできません。

注意 危険防止の為に以下をお読みください

- | | |
|--------------------------|---|
| ■ 取付ねじのゆるみ | ● 各部取付ねじのゆるみは、防犯及び落下防止の為に定期的に増し締めしてください。 |
| ■ 受座の飛び出し | ● 受座の飛び出しが大きい場合、体を傷つけたり、衣服を引っ掛けるおそれがありますので、取付業者に依頼して適正な受座に取り替えてください。 |
| ■ 他の用途への使用 | ● ロックターンにぶらさがったり、足場にしたり、物を掛けたりしないでください。危険です。 |
| ◆ 操作上の注意
(故障の原因となります) | ● 製品の分解、改造はしないでください。
● デッドラッチ、デッドボルトを突出させた状態で扉を閉めないでください。
● ボタンを押しながら、ロックターンの操作をしないでください。 |
| ◆ 永くご使用頂くために | ● 錠ケースへの潤滑材使用はさけてください。
● 表面の手入れは柔らかな布でから拭きしてください。
汚れのひどい場合は、中性洗剤を使用してください。 |

ドアの吊り下がり、扉の開閉速度、丁番の具合など異常がありましたら専門の業者にご相談ください。